

# 臨床思考向上委員～多裂筋と下肢痛～

今回は歩行時の大腿後面の痛み  
について考察していきたいと思います。

歩行時に大腿部の後面に痛みを訴える  
患者さんに対して先生は、  
どのような施術をされますか？

ハムストリングスを緩めたり  
臀部の筋を緩めたりしても

思ったように、症状が  
寛解していかないケースが  
あるかと思います。

そんな時に考えてほしい1つが  
腰椎周りの組織というところになります。

局所解剖の解剖図を見ていただけるとわかるのですが  
脊髄硬膜外静脈叢と呼ばれるものがあります。

この静脈の特徴として  
網目状に走行をしており、神経にも枝を伸ばしていて  
外圧に弱いといった事があります。

という事は、外圧がかかる事で  
これらの血管の循環が悪くなってしまうと、

神経への血液量が阻血となってしまいますから  
症状を引き起こしてしまうんですね。  
(歩行時に大腿後面の痛み)

では、この脊髄硬膜外静脈叢が外圧で圧迫される  
状況はどんな時でしょうか。  
それは、腰椎の前弯（伸展）増強時になります。

歩行時というのは  
股関節が伸展位が起こりますし

股関節が伸展すれば  
腰椎は伸展位になりますよね。

ですので、なぜ歩行時に  
過度な前弯の増強が起こってしまうのかを  
考えなければいけませんよね。

そこで考えるべき事の1つとして  
多裂筋があります。

多裂筋は腰椎の伸展筋になりますので  
過剰収縮が起こってしまっていると  
当然、腰椎を過剰にさせてしまいますよね。

また、多裂筋は  
脊髄神経後枝内側枝に支配神経を受けています。

この神経枝は椎間関節包も支配しているので  
歩行時に椎間関節部にも痛みを訴えられる方は

多裂筋に対するアプローチも  
行ってみるようになさってください。